

Max Classroom.net

入試問題アプローチ 2018

早稲田大学 商学部入試

A 入試概況 (1 ページ目は全学部共通)

大学全体の3年間の受験者数、合格者数、倍率の変化<一般方式、センター試験利用方式>

2018年度			2017年度			2016年度		
志願者数	合格者数	倍率	志願者数	合格者数	倍率	志願者数	合格者数	倍率
117,209	13,967	8.4	114,983	15,840	7.2	108,039	17,541	6.2

*注意： この表のみ志願者数に対する倍率。2 ページ目以降は受験者に対する実倍率。

私立大学入学定員管理の厳格化により、過去2年間で志願者は9170人増えたのに対し、合格者は3574人減っている。2016年度比で実に20%以上の合格者がいなくなったことになり、倍率も6.2から8.4と2ポイントも上がっている。

学部間併願状況 (早稲田大学入試センターHP より)

政経																			
1,715	法																		
1,285	944	文構																	
186	117	938	4技能																
984	802	5,592	604	文															
123	55	602	760	690	4技能														
1,334	1,436	5,274	586	4,822	483	教育													
3,405	1,949	3,184	322	2,250	203	5,675	商												
55	18	0	0	0	0	479	59	基理											
49	16	0	0	1	0	462	54	-	創理										
60	18	0	0	1	0	527	41	-	-	先理									
2,628	1,960	4,172	458	3,155	323	6,297	7,306	21	27	23	社会学								
425	437	1,420	95	1,121	77	3,440	2,347	180	206	162	2,642	人科							
51	49	158	14	118	6	429	307	10	16	9	329	526	スポ						
335	229	585	361	358	181	517	456	15	15	15	531	152	33	国教					

商学部は社会学部との圧倒的な併願関係を筆頭に、教育、文、文化構想、政経とも見られる。また文系学部の中では経済並んで理系学部との併願も少なからずいる。

過去3年間 方式別の受験者数、合格者数、倍率

		2018年度入試			2017年度入試			2016年度入試		
		受験者	合格	倍率	受験者	合格	倍率	受験者	合格	倍率
商	個別	12955	1028	12.6	12993	1190	10.9	12474	1325	9.4
	センター	2166	382	5.7	2133	441	4.8	2215	443	5.0

過去3年間の合格者のセンター900集計 得点率平均 (Benesse集計)

		2018年度入試	2017年度入試	2016年度入試
商	センター	92.2	92.9	92.8

過去3年間 方式別の合格者平均偏差値 (記述模試集計)

		2018年度入試	2017年度入試	2016年度入試
商	個別	71.4	72.0	71.4
	センター	76.1	75.6	75.0

一般個別試験での倍率は合格者の絞り込みにより年々高くなっているが、上位層は変わらずに残っており、合格者の平均偏差値は変わらない。一方、センター試験利用型は2018年度に合格者が絞り込まれたこともあり、合格ラインがやや上がったようである。いずれにしてもセンター利用型は難関国公立志望者が狙うところでもあり、個別試験と比べてレベルも高く、得点率も92~93%と高いものが要求されている。

B 英語試験の概況

文学部、文化構想学部、教育学部と並んで、MARCH との接続もしやすく、早慶上智の受験者には、最初に取り組みたい問題と言える。全体的には、早慶上智の中では標準レベルもしくは易しめの問題と言える。その意味では、高めの得点を取ることが求められる。大問数は 5 つで、そのうちの 4 つが長文読解、残りの 1 つが会話文という構成はずっと変わっていない。年度によって大問の順番や構成が多少変わるが、大幅な傾向は変わらず、また設問の形式が多少変化していても戸惑いを覚えるほどでは全くない。

長文の長さは 400 語から 600 語が相場で、総語数は 2300～2500 語程度である。読解量は早慶上智の中では少ない部類に入るため、焦って読む必要はない。一定の読解ペースを保ったうえで、自分なりの時間配分を探ってみよう。長文のレベルも標準的で、さほど難解なものはなく、概要は苦勞せずにとることができる。形式的には会話文、長文のみの出題で文法、語法問題の出題はない。しかし、それらの要素が長文問題の中でちらほら出てきている。長文読解がメインではあるが、一方で熟語、文法の補強も地道に同時並行で行いたい。語彙はやはり Target レベルに加え、それ以上のものも増やしていきたい。読解問題の中で、語（句）の意味を答える問題が出されるが、文脈から考えないといけないものもあれば、中には Target レベルの単語がカバーできていれば答えられるものもある。

対策としては、500 語の文章量から始め、700 語をベースにして練習を重ねよう。同系の問題としては、早稲田教育学部がまずは一番に挙げられる。その他、早稲田文学部、文化構想、慶応商学部あたりも十分練習問題になる。

【時間の目安と難易度】

	内容・語数	時間	難度
1	会話文の読解	10 分	B
2	長文読解： 400～600 語程度	20 分	C
3	長文読解： 400～600 語程度	20 分	
4	長文読解： 400～600 語程度	20 分	
5	長文読解： 400～600 語程度	20 分	

試験時間は 90 分であるが、問題のボリュームからしてきついものではない。時間配分は 2～5 の長文を 1 つ 20 分以内ということで設定しておく。実際に問題を解く中で出る過不足を他の問題で調整していく。実際には、長文 4 題合計で 75 分、会話問題 10 分が上限で、できれば全て 85 分以内に終わらせ、5 分は見直しに持っていきたい。

配点は以下をベースにして 150 点満点で考える。

- ・和訳や英訳の筆記が各 5 点
- ・()のついていない記号問題、1 語、2 語で答える筆記が各 3 点
- ・()のついている記号問題が各 2 点

C 出題形式ごとの分析とアプローチ

年度により多少の出題形式が異なるが、ここでは 2018 年度の問題をベースに分析を行っていく。

大問 1

【2018 年 商学部】

次の会話文を読み、下記の設問に答えよ。

The following conversation is taking place in the lobby of an apartment building.

Chris : Excuse me, you are the new tenant in unit 902, right? I'm Chris, the building manager.

Akane : Yes, we just moved in a couple of days ago. Pleased to meet you.

Chris : (1) I realize you must be pretty busy now but I wonder if you've had a chance to look at the information sheet about the upcoming repairs. All building residents should've received it last week.

Akane : Ah, sorry, (イ) I've been running around the whole time. Haven't checked the mail yet. Is this just general building maintenance?

Chris : The water pipes are quite old, so the administration has decided to replace them. The company will need access to your apartment from next Monday.

Akane : Hmm... (2) I'll be gone all day Monday. Is there any way this work can be pushed back?

Chris : Unfortunately, (ロ) that's out of the question. Sorry for the inconvenience, but you'll need to comply with the timetable.

Akane : All right. And how many days do you expect it will take to get it finished?

Chris : Our estimate is one week but it's a major project. (3) Keep in mind that workers will be in your apartment only on weekdays. <以下省略>

設問 1. 空所(1)~(5)を埋めるのもっとも適当なものを(a)~(j)からそれぞれ一つ選び、マーク解答题の所定欄にマークせよ。ただし、各選択肢は一度しか使えない。

- | | |
|--------------------------------------|------------------------------------|
| (a) How kind of you! | (b) Likewise. |
| (c) Obviously, you're right. | (d) Of course, and you too. |
| (e) So, a delay is possible. | (f) The work must be very costly? |
| (g) This is getting worse and worse. | (h) This is very short notice. |
| (i) What a reasonable suggestion! | (j) What will the repairs involve? |

設問 2. 下線部(イ)~(ハ)の意味にもっとも近いものを(a)~(d)からそれぞれ一つ選び、マーク解答用紙の所定欄にマークせよ。

(イ)

- (a) I've been away (b) I've been busy (c) I've had a long workout
(d) I've stayed nearby

(ロ)

- (a) administrative decisions cannot be questioned
(b) doing the work sooner should be discussed
(c) postponing the repairs is impossible
(d) the schedule for repairs is adjustable

(ハ)

- (a) in principle (b) in the basement (c) in the future
(d) in the next building

設問 3. 下線部(A)を 10 語以内で英語に直し、記述解答用紙の所定欄に書け。ただし、最初の語は与えられている。

【形式】

200~250 語程度の会話文。設問は 2~3 つの形式がある。1 つ目は 5 つの空所を(a)~(j) の 10 の選択肢から補充する問題である。2 つ目は文脈から下線部の発話の意味を読み取る問題が 4 題出される。2013 年まではその 2 つの形式であったが、2014 年は設問 3 として、和文英訳が 1 つ出題されている。

【分析・アプローチ・MAX 感想】

2017 年にはビルゲイツのインタビューという異色のものが出題されているが、会話文は身近な状況についてのものが多く、読みやすく内容を取り間違えると言うことはないだろう（というかあってはならないレベル）。

2011 年	引っ越し業者との会話	2015 年	旅行先での体調不良
2012 年	コンピュータートラブル	2016 年	飛行機チケットの購入
2013 年	バスのチケット売り場	2017 年	ビルゲイツのインタビュー
2014 年	大学生の旅行	2018 年	テナントの修理について

設問 1 の選択肢が、大体どのあたりに入るのかということイメージできるように、まずは必ず全体の First Reading をしてから会話の流れをつかんでから解答に入ること。設問 1 は、以下のように具体的な内容を含む選択肢なのか、一般的な選択肢なのかを振り分けることがアプローチとしての第一歩。前者は「ビルのテナントの修理」という今回の会話の文脈でしか出てこない選択肢で、後者は「どの会話にでも出てきそうな選択肢」である。前者の下線部の言葉がまさに文脈を特定するキーワードであり、そこに着目しながら、「この会話のこの部分でしか使えない」とより分かりやすく限定できるものを正確に入れることが 1 つのポイントになる。会話の流れが明確なため、選択肢を絞るのはそう難しくはない。大きな文法的な要素も判断の根拠にしたいが、会話独特の文脈があるため、必ずしもそれが有効とは限らない。

具体的な内容を含む選択肢	一般的な選択肢
(e) So, a <u>delay</u> is possible.	(a) How kind of you!
(f) The work must be very <u>costly</u> ?	(b) Likewise.
(g) This is getting <u>worse and worse</u> .	(c) Obviously, you're right.
(h) This is very <u>short notice</u> .	(d) Of course, and you too.
(j) What will the <u>repairs</u> involve?	(i) What a reasonable suggestion!

設問 2 の下線部の意味をとる問題は、該当箇所の前後の個所の意味をしっかりと考えながら、会話をイメージすることが解答のカギになってくる。ただでさえ会話の文脈は面倒くさいのに、さらにその下線部の意味を推測させるという 2 段階の推測プロセスを踏まなくてはならず、その点で紛らわしい選択肢もまぎれている。下線部と選択肢を見比べるだけでなく、本文の下線部の表現を無視して、あえて空欄としてとらえ、どの選択肢がその空欄にふさわしいのか文脈と選択肢を直接つなげるアプローチも必要だろう。さらに、会話は、「あれも言えそう、これも言えそう」と沼にはまってしまうため、考えすぎずに、素直に選択肢を選んでいくこと。内容面から選択肢は簡単に 2 つには絞れる。あとは、「より自然」と感じる表現を素直に選ぶ（それで間違っていたら仕方ない）。

目標とする正解数は設問 1、2 とともに、1 問間違えまでが理想。最低でも 8 問中 5 問は確保したい。このレベルの問題で 4 問落としてしまうのは、配点として大きく差がつかなくても、実力として苦しい部分がある。設問 3 の和文英訳は特段難しくないが、その分、基本的な表現を間違えずに使うことが求められる。全体的に取れなくてはいけない問題。

【MAX 感想】

上記にある通り、会話ではしばしばあることだが、文法的な要素が必ずしもあてにならない部分がある。2014 年度の問題で特徴的なものがあった記憶しているが、「何かいいアドバイスありますか？」という意味で、Got any suggestion? というものを求めている個所があった。しかもこれが(Have you) got any suggestions? という表現を簡易化したものなので、判断が難しいものであった。このように、この問題は「会話独特の表現・文脈判断」を受験生に求めているということは一つ頭に入れておこう。

大問 2～5

【2018年 商学部】

次の英文を読み、下記の設問に答えよ。

I spent the majority of this summer at Middlebury College, studying at l'École Française. I was there to improve my French. My study consisted of four hours of class work and four hours of homework. I was forbidden from reading, writing, speaking, or hearing English. At every meal I spoke French, and over the course of the seven weeks I felt myself gradually losing touch with the broader world. (A)This was not a wholly unpleasant feeling. In the moments I had to speak English (calling my wife, interacting with folks in town or at the book store), my mouth felt alien and my ear slightly (イ).

The majority of people I interacted with spoke better, wrote better, read better, and heard better than me. There was no escape from my ineptitude. They had something over me, and that something was a culture, which is to say a suite of practices so (1)ingrained as to be ritualistic. The scholastic achievers knew how to quickly memorize a poem in a language they did not understand. They knew that recopying a handout a few days before an exam helped them (2)digest the information. They knew to bring a pencil, not a pen, to that exam. They knew that you could (with the professor's permission) record lectures and take pictures of the blackboard.

This culture of scholastic achievement had not been acquired yesterday. The same set of practices had allowed my classmates to succeed in high school, and had likely been reinforced by other scholastic achievers around them. I am sure many of them had parents who were scholastic high-achievers. This is how social capital reinforces itself and (3)compounds. It is not merely one high-achieving child, but a flock of high-achieving children, each backed by high-achieving parents. I once talked to a woman who spoke German, English and French and had done so since she was a child. How did this happen, I asked? "Everyone in my world spoke multiple languages," she explained. "It was just what you did." 以下省略

【形式】

大問 2～5 は設問形式が多少変わっても、ほぼ同じ傾向の問題だと言える。空所補充、内容判断、1 つ特徴的なのは、英文和訳、内容説明をはじめとした筆記問題があることだろう。正誤問題など、様々な設問がある。

【分析】

全体的には標準的な文章で、一部「やや難」というレベルが含まれる。語数は以下にある通り 500～600 語、4 題合計で 2000 語強を 1 つの相場と考えればよい。またもう 1 つ特徴的なこととして、出典にあるように多くが時事系雑誌、新聞から出ており（中でもアメリカ系が一番多い）、この学部の教授陣がどのような文章やジャンルに当たってほしいと思っているか、受験生に対するメッセージでもある。また、それらの出店から考えるとやはり社会・経済・国際をテーマにした時事トピックが出やすいという傾向も分かる。出典に示されている時期を見ると年の夏～その年の春ぐらゐまでが多い（2018 年 2 月の入試であれば、2016 年）。Times あたりは雑誌で量も多くないので、慣れるという意味では定期的に記事は読んでおきたいところだ。

過去 4 年間の長文の語数

	2018 年	2017 年	2016 年	2015 年
大問 2	660 語	540 語	530 語	470 語
大問 3	590 語	410 語	500 語	720 語
大問 4	490 語	490 語	580 語	490 語
大問 5	530 語	480 語	510 語	530 語
合計	2270 語	1920 語	2120 語	2210 語

過去 4 年間の長文の出典

	2018 年	2017 年	2016 年	2015 年
大問 2	The Atlantic	The New York Times	The New Zealand Herald	The New York Times
大問 3	BBC News	The Times	The Time Magazine	Wall Street Journal
大問 4	The Times	洋書など	Wall Street Journal	洋書など
大問 5	The Economist	The Times	洋書など	New Scientists

難易度を決めているのは、文章の難しさと言うより、選択肢の難しさと言える。設問は前後のキーワードと突き合わせながら選ぶものが多く、焦らずに解いていきたい。

【アプローチ】

大問によって設問形式や構成が異なるので、まずは設問に目を通して、設問文やリード文の伴う問題があれば、そのキーワードを押さえてからスタートしたい。これまでの傾向から言うと4つの長文大問のうち3つがこのような内容理解を含み、残り1問はTFなどの問題であらかじめ設問から得られるキーワードは少ない。

語数は500～600語程度であり、焦って読むほどではないが、合計で4題あることを考えると、テンポよく読み、ダラダラ時間をかけないことも重要。基本は速読&概要把握であり、設問、選択肢の難易度がやや高いことを考えると、Second Readingで本文に戻ってこざるを得ない。読んでいる中で、そのパラグラフのトピックと筆者の判断、Discourse Markerにいくつか印をつけておけば十分である（逆に言えば、ここぐらいはFirst Readingで印をつけておきたい）。その他の空所補充や文脈判断、筆記問題は、はっきり言うと全部読めてなくてもその前後だけで答えられることが多い。しかも空欄や下線が施されているため、どこをメリハリ付けて読むかが分かりやすい。

First Readingでは、1つ1つを解答しながら読んでいくことは避ける。色々な種類の設問が混在しているため、理解がぶつ切りになり、またどの設問を解くのか混乱しかねない。読む速さは5～6分でFirst Readingを行い、13、14分かけて問題を解くというペースがよい。

形式1： 空欄補充

大問Ⅲ 設問2

空所(1)～(4)を埋めるのもっとも適当なものを(a)～(d)からそれぞれ一つ選び、マーク解答用紙の所定欄にマークせよ。

(1)

(a) between (b) over (c) through (d) to

(2)

(a) interestingly (b) presumably (c) roughly

(d) significantly

本文の空所を埋める問題。上記にあるような前置詞、副詞を入れる問題がやや難しく感じる。文脈判断もさることながら、文法そして熟語表現がものをいうものもある。文脈がもちろん1番の判断のカギだが、文法的な要素にも気を配ることが紛らわしい選択肢をふるい落とすことにもなる。

形式 2 : 文脈判断

大問Ⅲ 設問 3

下線部(1)~(5)の意味にもっとも近いものを(a)~(d)からそれぞれ一つ選び、マーク解答用紙の所定欄にマークせよ。

(1)

(a) enthusiast (b) importer (c) instructor (d) researcher

(2)

(a) generally desired (b) highly popularized
(c) outrageously priced (d) rarely obtained

下線部の意味に近いものを選択肢から選ぶ問題。商学部の長文では頻出。単語レベルを問うものもあれば、長めのフレーズが問われるものもある。一番簡単なのは単純に単語が分かっていたら解ける問題。一番難しいのは、そのままの意味ではなくひねった意味で単語を推測する問題である。単語の意味から考えるのがもちろん一番重要であるが、一方で単語のそのままの意味にとらわれすぎず、前後の言葉から判断することもあわせてアプローチとして行いたい。

形式 3 : 内容判断、正誤判断

大問Ⅱ 設問 3.

1. Which of the following best describes the author's feelings during most of the summer course?
- (a) alien (b) incompetent (c) pleasant
(d) scholastic

大問Ⅲ 設問 1.

1. Darjeeling tea
- (a) is native to West Bengal state in India.
(b) is picked over a little more than half a year.
(c) is referred to as the "champagne of teas" because of its violent history.
(d) is too expensive for local people to purchase.

大問IV 設問 3

次の 1. ～5. について、本文の内容に合うものはマーク解答用紙の T の欄に、合わないものは F の欄にマークせよ。

1. It will take a long time before we can get our cities to provide us with real-time data and tell us where the next free car parking spot is.
2. LED street lighting can bring city authorities substantial energy and cost-savings, which can lessen the pressures of running a city.
3. According to David Nicholl, game-changing innovations in city, office, retail and residential environments can be accomplished with LED light points as they can easily be connected, monitored and controlled wirelessly.
4. A growing number of cities around the world are at the cutting edge of smart city digital infrastructure due to their fact-based decisions.
5. In Los Angeles, emergency response times are improved as the sound of a motor vehicle collision is detected by environmental noise-monitoring sensors.

これらは文章の全体的な理解を問う問題であり、空欄や下線部が施されているわけでない。そのため、最初に設問に目を通して、キーワードを拾っておければがベストだが、それがうまくできない設問も多く、いずれにしても **First Reading** でそのパラグラフのトピックと筆者の判断、**Discourse Marker** にいくつか印をつけておけば、後の作業が楽になる。ただ時間的には余裕もあるので、後で戻ってくることもできるので、基本的には大意の把握が良い。

TF 問題については、**First Reading** の後に、何となくの理解を頼りにしつつ、①あっていると思うものには T、②間違っていると思うものには F、③判断が付かないものには△と印をつけていく。その後、**Second Reading** で T、F をつけたものが本当にあっているのかの確認作業、そして△の選択肢の答えを探す作業をしていく。

形式4： 文の並び替え

大問Ⅱ 設問3.

設問5. [あ] を埋めるために [A] ~ [F] を並べ替え、その正しい順番を(i)~(iv)から一つ選び、マーク解答用紙の所定欄にマークせよ。

- [A] I asked her to spell the quote out for me.
- [B] I did not understand.
- [C] I wrote the phrase down.
- [D] Suddenly I understood — and not just the meaning of the phrase.
- [E] The next day, I sat at lunch with her and another young woman.
- [F] The other young lady explained the function of the pronouns in the sentence.

(i) E → A → C → B → F → D

(ii) E → F → D → C → A → B

(iii) F → B → A → C → E → D

(iv) F → D → A → C → E → B

2018 年度に新しく出た形式である。まず並び替えの絶対的なアプローチとしては、「最初にくる選択肢を特定する」ということである。前置詞や代名詞、時制といった文法的な要素もヒントにしながら、選択肢を絞っていく。さらに、このように選択肢が与えられている問題は、それらを見ながら効率的に絞っていく。

上記の問題で言えば、以下の2つの手順を踏めば、すぐに答えは絞れる。

- ① EかFのどちらが先頭にくるのかを判断する
- ② 残った2つの選択肢の中で、順番が逆になっている選択肢を見比べる。
(DがBより前にくることはあるのか、など。)

形式5： 筆記

大問Ⅲ

設問 4. 下線部(あ)を日本語に訳し、記述解答用紙の所定欄に書け。

大問Ⅴ

設問 4. 下線部(A)を日本語に訳し、記述解答用紙の所定欄に書け。

過去にはこのような形式のものも出ている。

【2014年】

大問Ⅱ

設問 5. 下線部(B)が指している内容を 20 字以内の日本語で述べよ。解答は記述解答用紙の所定欄に書け。

基本的な筆記の形式は、英文和訳である。日本語での内容説明が求められる問題が出ることもある。問題レベルは易しく、千葉大、筑波大、横浜国立、お茶の水女子といったような第二難関レベルの国公立の問題と比べても取り組みやすいと言える。しっかりとした英語力があれば特段の準備は必要ない。和文英訳は細かい点を含め、構文の時点で間違えることがないように基礎力をつける。暗証例文の復習で対応しよう。

形式6： 1~2語で答える問題

大問Ⅱ

設問 4. 下線部(A)が指し示す語句を本文から抜き出し、その最初と最後の語を記述解答用紙の所定欄に書け。

上記の問題に加え、「代名詞の指すものを選ぶ」といったような 1~2 語で答える問題が 1~2 題出題される。難しく考える必要は全くないが、たまに文法面の確認が必要になる。例えば、2014 年の大問Ⅳ・設問 1 では one の指す内容を答えるのだが、そのまま本文から抜き出すと the idea になってしまう。しかし、問われているのは特定の it ではなく、不特定の one であるため、an idea と答えるのが正解になる。このようなひっかけに近いものは多くなく、通常はもっと素直な問題であるが、気をつけたい。

【MAX 感想】

ほとんどの問題はスムーズに解けたが、選択肢が紛らわしいところで戸惑った感がある。難易度を決めているのは、文章の難しさと言うより、選択肢の難しさと言える。本文にマークをせずに読むこともやってみたが、内容理解で答えを探すときに、「あー、キーワードだけでもマル付つけときゃよかった」とちよっぴり後悔したのも事実。文章が短いので、答えを探すのも大きなロスにはならないが、パラグラフの主旨に印をつけておくだけで解きやすさが違うなと感じ、時間が苦しい人は気をつけた方がよい点だろう。設問形式としては、下線部の文脈判断が多いと感じた。筆記問題は非常に簡単で「これで早稲田の問題か?」と言ってしまいたくなるレベルだ。その分、基本に忠実に取りこぼさないようにしたい。

今回の問題は大問ごとの難易度の差は大きく感じない。各大問、できれば3問間違えまで、難しいものは4問間違えまでを目標にしたい。もちろん、全体的にはもう少し間違えても大丈夫だが、全ての大問において正答率が6割を切らない水準で正解したい。所要時間は4題とも First Reading が4~5分、全て解き終わるまでに16分から16分半というペースだった。